

第 13 回尖石縄文文化賞

受賞者：小林圭一

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月30日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人・団体延べ13件である。

候補者の内訳は、40歳代から60歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英式が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第13回尖石縄文文化賞の受賞者として、小林圭一氏（山形県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏の研究は、東北地方の縄文時代後期から晩期にかけての土器の型式変化を詳細にあとづけて、土器による年代的組織の編成に精力的に取り組み、当該期の型式研究において新たな到達点を示したものである。さらに、最上川水系の縄文時代遺跡の立地や集落構成、出土遺物の検討を通じて、地域的な特性を明らかにした。こうした研究は、広範な資料に基づく精緻な分析から、東北地方における縄文時代研究を先導するものとして高く評価できる。

小林氏は、緻密な土器編年研究とその研究に立脚して東北地方の最上川水系の社会構造を考察している。このことは、地域と結びついた縄文人の行動や社会生活を明らかにしようとした宮坂英式の研究・業績を顕彰する宮坂英式記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿った、まことにふさわしい受賞者である。

2012年8月30日

宮坂英式記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第 13 回受賞者 小林圭一 氏